

## 「放射線技術学シリーズ 基礎医学大要」

## 第1版第1刷用正誤表

頁	当該箇所	誤	正
56	12行目	細胞内のNa <sup>+</sup> 濃度が低く、 <u>細胞外の</u> K <sup>+</sup> 濃度が高くなる。⊕イオンが多い細胞外	細胞内のNa <sup>+</sup> 濃度が低く、K <sup>+</sup> 濃度が高くなる。全体で⊕イオンが多い細胞外
76	16行目	頭蓋頸	頭蓋底
160	35行目	これを <u>抗体</u> のオプソニン化	これを <u>抗原</u> のオプソニン化
169	表4・27 5行目	<u>顆粒無顆粒球</u>	顆粒球
178	14行目	余剰の <u>ATP</u> が分解される。 <u>ATP</u> が分解される	余剰の <u>ADP</u> が分解される。 <u>ADP</u> が分解される
182	1行目	る。 <u>第1極体</u> も同様である。	る。 <u>第2極体は受精と無関係に退化消滅する</u> 。
193	表4・31 4行目 5行目	外側 内側	外節 内節
197	4行目	図4・110	図4・111
205	19行目	運動神経により <u>伝導</u> なので	運動神経による <u>伝導</u> なので
222	22行目	図4・130中段	図4・131中段
259	29行目 30行目 32行目 36行目	TO <u>A</u> CH	T <u>O</u> RCH
265	解説⑨	( <u>β</u> 細胞< <u>β</u> リンパ球>から分岐)	( <u>B</u> 細胞< <u>B</u> リンパ球>から分岐)
283	7行目	<u>上</u> 高齢者では腕骨近位部、	高齢者では <u>上</u> 腕骨近位部、
286	15行目	量80% <u>以下</u> となる。	量80% <u>未満</u> となる。
320	表6・8	<u>両</u> 性悪性	<u>良</u> 性悪性
346	19行～21行	<u>アゴニストは受容体に結合して細胞の機能に変化受容体に結合するのをブロックして効果の発現を妨げる薬剤である。その機能から遮断薬、ブロッカーとも呼ばれる。アゴニストはさらに細かく分類されるが、詳細は専門書に委ねる。</u>	<u>リガンドが受容体に結合する分子全般を指すのに対し、薬物由来のリガンドがアゴニストやアンタゴニストである。受容体に結合することで作用を増強、活性化する薬剤をアゴニスト、逆に作用を抑制、阻害する薬剤をアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬、ブロッカー）と呼ぶ。さらに細かく分類されるが詳細は専門書に委ねる。</u>
351	29行目	後出の表7・ <u>4</u> 参照。	後出の表7・ <u>7</u> 参照。
379	1行～3行	この検査法の有効性を有病正診率< <u>陽性的中率</u> >で表すと何%か。 解答： $70/(70+20)=0.78$ (78%)	この検査法の有効性を有病正診率で表すと何%か。 解答： $70/(70+30)=0.70$ (70%)
397	表10・6末	項目4の <u>喀痰検査</u> と	項目4の <u>胸部エックス線検査</u> を除き、
398	16行目	10・ <u>8</u> に示す。	10・ <u>7</u> (右欄)に示す。